

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	令和4年12月9日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年2月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年のことだけど消防訓練も毎月行い年2回依頼する消防署からもよくできているとお褒めの言葉を頂いている。動けない利用者の代わりに玄米30キロを使用したり寝袋に布団を詰めたりし利用者の重さや動きで訓練している。他に職員それぞれに2名ずつの委員会責任者を決めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近くに小川が流れる自然豊かな場所に立地している。『安心して暮らすということ、自分らしく生きること』を理念として掲げ、朝食は入居者が起床する時間に提供するなど入居者の生活リズム合わせた支援がなされている。ホームは年2回の避難訓練に加え、毎月、独自に火災の自主訓練を行っており、日頃から職員に対し防災意識の啓発に取り組んでいる。市の委託事業で地域の公民館で介護教室を開催し、認知症ケアのことや介護相談を受けたり、ホームとして自治会にも加入し、地域行事に参加するなど、ホームは地域の一員として溶け込んでいる。職員のチームワークが良好で、職員同士がコミュニケーションを図りながら業務を行い、代表者及び管理者が職員の相談事にも真摯に対応している様子が窺え、働きやすい職場環境にある。職員は入居者に対し家族のように関わっており、入居者が安心して穏やかな雰囲気でも過ごしているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、食堂に理念かかげ実践に心掛けている。	職員全員で話し合いの上、ホームの理念を『安心して暮らすということ、自分らしく生きるということ』とし、玄関に掲げ、職員が毎朝確認し、意識づけを図っている。職員は入居者一人にとりのペースに合わせた暮らし方を支援し、日々介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃は参加していたがコロナの為行事が中止になる事が多かったが社長が地区の会計をされていて行事の日程など分かり祭りなど寄付や御守りをいただいたりしている。	ホームとして自治会に加入し、自治会のイベントや会議などにも参加している。コロナ禍前は地域住民と一緒に焼肉会などを行っていた。ホームが開催する介護教室には毎回地域住民20名程度が参加し、認知症介護や介護相談など地域貢献に繋げており、地域の一員として溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を行い、地域の人々に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為スタッフのみで行事、入居者状況、スタッフ研修等報告行なった。推進委員の方々にはお便りを送付し意見や情報を頂きサービス向上に活かしている。	コロナ禍にて運営推進会議を対面で行うことが困難な為、ホーム内で、行事や研修、事故報告や避難訓練の状況などを話し合い、運営推進会議の委員や家族へ議事録を送付している。	運営推進会議は書面会議であっても各委員との双方向性の意見交換が求められる。書面会議を実施した場合にも、各委員から意見や質問等をもらいやすいよう工夫する事に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナにより運営推進会議に参加して頂くことは出来なかったが、九十九だよりや議事録等送付している。	管理者は日頃より行政担当者と電話や窓口に向いて相談や手続きなどを行っている。地域包括支援センターへ空床状況を報告したり、市の委託で地域住民向けに介護教室を開催するなど、行政との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修や身体拘束適正化委員会議をホーム内で行い、web研修などにも参加しスタッフで話し合いながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠夜間のみ行っている。	身体拘束に対して地域住民や民生委員、心療内科医などを交えて研修会を行い、情報の共有と職員のスキルアップに努めている。入居者に対する職員の言葉かけなどが気になった場合は、職員が互いに注意し合いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修はコロナの為なかったがweb研修に参加し、スタッフ同士で声掛けや言葉遣い、強い口調など気づいた時にお互い注意し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などある場合は参加し理解を深め個々の必要性に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様、家族様へわかるような言葉で説明しながら不安や疑問など尋ね、十分説明し理解、納得して頂き契約結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に日々の日常会話や様子、声掛けなどから思いを引き出し。家族様には面会、電話等にて意見を聞いている。	職員は入居者との普段の会話の中から意見を汲み取っている。家族には電話や面会に訪れた時に意見を伺うようにしている。「帰りたい、家族に会えない」と言われていた入居者に対し、家族の協力を得て馴染みの美容室へ連れて行ってもらうなどの支援を行った。	重要事項説明時には、第三者(外部)評価の受審状況として、実施の有無、評価機関名、評価結果の開示状況を重要事項説明書に明記すると共に、外部評価を通じたアンケート調査で客観的に家族意見等を汲み取る機会がある旨を伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議でスタッフの意見や要望、提案を聞き話し合っている	代表者や管理者と職員があらためて個別面談を行う機会は設けていないが、職員は普段から管理者や代表者と相談しやすい環境にある。職員からの提案で、ホール外にウッドデッキを増設し、洗濯物を干しや日光浴などに活用している。介護資格の取得等に関し、会社が費用負担したり、業務として研修に参加するなど、バックアップ体制がある。	近年介護現場のハラスメント対策の強化が求められたこともあり、円滑な職員意見の反映に繋げる為にも、ハラスメントの研修や相談窓口設置など、今後ホームとして対策を強化することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料も少しずつUPがあったり手当がついたり希望休、有給など取りやすい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修へは職員自ら希望し参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のブロックグループホーム連絡協議会との研修会はコロナ化になり交流が少なくなったが佐世保市グループホーム連絡協議会の研修などに参加し交流している。又県や福祉団体等のリモート研修にもさんかしている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会行い、困っている事、不安など聞き取り行い安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学や面会行い希望を聞き信頼関係が築け安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様より希望、要望を聞き必要としている事を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人が出来る事を見極め、手伝いやレクリエーションなどに参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為窓越しの面会、電話などで現状報告をしたり、日頃の活動の写真などを新聞にし家族様に送付している。中には家族さん同行で通院等があり本人、家族との関係を築いている、		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しではあるが面会してもらったり希望により馴染みの美容室に外出されたりしている。またお手紙等が来たらお返事を書いてもらったりしている。	病院受診の帰りに本人の自宅前を通ったり、入居者の友人と手紙のやり取りを支援するなど馴染みの関係を継続できるよう工夫している。コロナ禍の為、入居者の友人や親族との面会は窓越しで行い、遠方の家族にはテレビ電話を活用するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人と席を近くにしたりスタッフが間に入って会話を進めたりし家事手伝い、日光浴をバルコニーで季節柄いい日にはしている。。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者様の様子、会話などから希望を見つけ本人様の希望に近づける努力をしている。	職員は、入居者が一人で寛いでいる時に声をかけ、落ち着いてリラックスした状態で会話をしながら本人の思いを汲み取っている。年1回、家族へアンケートを実施し、意見や要望を伺っている。把握した情報は個人記録へ残すと共に申し送りを通じて職員と共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りや本人様との会話などから把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で気分の変化や行動パターンなど一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと担当者、担当者以外の職員も意見を出し合い家族様の希望も取入れケアプラン作成している。	職員は入居者毎の担当制となっており、担当者と計画作成担当者が話し合い、介護計画を立案している。立案した介護計画は、各職員が確認し、押印する事で入居者の目標等を全職員が把握し、介護計画に基づいた適切なケアが行えるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録に日々の様子を記入し共有しながらケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様に合ったサービスが出来る様話し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、活動などなるべく参加し交流図っていたが今年はコロナの為あまり参加できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を出来るだけ継続し通院介助など希望に沿った支援行っている。	ホームは入居前のかかりつけ医を継続することができる。病院受診の際は職員が付き添い、必要時には家族にも同行を依頼している。受診後は受診記録に残し、各職員が確認し情報共有を行っている。かかりつけ医によっては訪問診療にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活、日々の関わりで変化や状況など受診時、電話などで看護師やDrに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必要な書類を用意し病院で対応してもらえるように情報交換行っている。退院時には病院よりサマリーをもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてはターミナルケア行っていない為契約時に十分な説明行っている。	ホームでは、看取り支援は行っておらず、家族には入居時に説明し同意を得ている。入居者の状態に応じ、主治医や家族と話し合いながら、ホームで対応可能な範囲で支援している。近隣の訪問看護事業所との連携も図れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて研修や消防署に依頼し指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消防署へ依頼し、ホーム内では月一回訓練を行っている。また年に2回の災害避難訓練、備蓄備品の管理も行っている。	ホームの方針として、毎月、火災の自主訓練を実施している。地域の特性を踏まえ、土砂災害を想定した訓練も行っている。重度化した入居者を想定し、30kgの米俵を使用するなど、有事の際に迅速に対応できるよう取り組んでいる。	従来の防災計画を包括しつつ、危機発生後の事業継続のためにも、今後、BCP(業務継続計画)の策定とBCPに基づく訓練も視野に入れ取り組むことを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じた声掛け、分かりやすい声掛けを行っている。	職員は入居者一人ひとりの生活パターンを重視し、無理強いしない対応を行っている。ホームでは日頃のケアを振り返りながら、より良いケアが行えるよう取り組んでいる。ホームで接遇に関する内部研修を行い、職員のスキルの向上に努めている。稀に職員の口調が強まることもあるが、その都度互いに注意し合いながらケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや、希望が言えるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のその日の体調や気持ちを尊重し食事、就寝、起床など自分のペースで生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にタンスがあり本人様の洋服があるので自由に着替えたり、選んだりしてもらい洗面所にはくしを置き髪を整えてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し好みや力を活かし、スタッフが声掛け行いながら茶碗ふきや出来る事を手伝ってもらっている。時には献立等も一緒にかんがえている。	食事はホームで手作りのものを提供している。献立は概ね決めているが、近隣住民から野菜の差し入れがあったり、入居者のリクエストに応じて献立内容を変更する事もある。誕生日には本人より食べたい物や好みの物を伺い、食卓に並べている。コップ類は本人の馴染みの物を持ち込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態などを把握し残食チェック行っており水分量も食事以外に10時、15時とってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け見守りにて口腔ケア行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行っている。	排泄チェックシートを活用し、職員が入居者個人の排泄パターンを把握して声かけやトイレ誘導を行っている。入居者の状態に応じて使用具を検討するなど排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分等心掛けて入るが便秘の際にはDrに相談し処方された薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながらタイミングに合わせて入浴してもらっている。本人が入りたい日は出来る限りシャワー浴、ジャグジーバスなど希望に応じ楽しんでもらうように支援している。	夏場は週3回、冬場は週2回程度と季節に応じて入浴回数を検討している。入浴を拒否した場合は、時間や職員を変えて声かけし、それでも難しい場合は日にちを変更するなど対応している。浴槽はジャグジー仕様になっており、本人の希望に沿って使用する事が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房で温度調節を行ったり、テレビはオフタイマーにするなど安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に通院記録を記入し、薬の変更やDrからの指示などわかるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせて役割を持ち楽しみのある日々を過ごしてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やドライブ、希望者は買い物などに出かけている。新型コロナ感染一時緩和の時には家族さんと買い物行かれることもある。	受診の帰りに買い物に寄ったり、家族と買い物に出かけたりしている。日常的にウッドデッキで日光浴や周辺を散歩するなど、コロナ禍であっても入居者の気分転換を図り、ホームに閉じこもらないよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望でお金を所持したり使えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方の希望があればテレビ電話で会話してもらったり、贈り物や手紙が届いた場合は手紙を書いてもらったり、携帯を持たれている方には自由に使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや加湿器を置いたり、季節のカレンダー、花などを置いたりしている。	共用空間は、毎日職員が清掃を行っており、定期的にエアコンフィルターも清掃を行っている。手に触れる部分の消毒や、適宜換気を行いながら、感染症等への対策に努めている。壁面には季節に応じたカレンダーや飾りなどを掲示し、入居者が季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がおもいのまま居間での体操や会話、歌を歌われたり好きな場所で好きな事をして過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅よりタンスや布団など使い慣れたもの馴染みのあるものを持ってこられ本人が居心地よく過ごされるように工夫している。	居室は、職員が毎日清掃し、清潔保持に努めている。入居者にとって居心地の良い居室になるよう本人の馴染みのタンスやテーブル、布団などを持ち込んでもらい、入居者や家族と相談しながら設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動が出来る様ソファの位置を変更したり、場所が分るよう貼り紙をしたりしている。		